いなベステージのコース最大勾配区間の激坂は道幅も狭く、各チームの仕掛けどころにもなっている

TOUR OF JAPAN INABE STAGE

NTN Presents

巻頭特集

第20回ツアー・オブ・ジャパンいなベステージ開催!
自転車を活用したまちづくりを推進

国内最高峰の国際自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン(以下TOJ)」は、
8都市で、8日連続のレースを開催していくステージレース。
昨年のTOJ全体の観戦者数は36万人を超える盛り上がりを見せた。
ツアー中盤の要となっているいなベ市では、5月23日(火)に127kmのいなベステージが開催される。

自然豊かで起伏に富んだいなべ市の地形を生かす

三重県最北端に位置するいなべ市。東海地区最大級の梅林公園、藤原岳や竜ヶ岳の登山が有名だが、サイクリスト(サイクリング愛好家)の間では、信号機の数が少なく、交通量もそれほど多くないうえ、起伏に富み、走りやすい道路環境で知られている。週末には市外県外から走りに訪れる人も多い。

そんないなべ市が、TOJのステージ誘致に乗り出したのは2014年だった。「8日間の日程の中で、大阪府から岐阜県の間で2日の空き日程があり、大会本部が開催地を探しているという話から、誘致の働きかけをしました。ほかのステージには富士山、東京、伊豆、堺など知名度の高い地域が並び、その中に加わることで、市をPRする狙いもありました」と、いなべ市商工観光課の田中国大さんは経緯を話す。

誘致が実り、初開催となった2015年には小雨が降る中、約1万8千人が観戦した。翌年は天候にも恵まれ、2万人の観客がメイン会場の梅林公園や沿道で声援を送った。

いなベステージの魅力として、田園地帯と山岳の2つの要素を備えたコースであるほかに、観戦のしやすさを田中さんは挙げる。「沿道に歩道がある区間が多く、レースを間近で観戦できます。梅林公園の高台からは、選手を長い時間見ることができます。また、コース最高の観戦ポイントの激坂区間まで、梅林公園から徒歩で移動可能です」

いなべ市商工観光課
田中国大さん

「ときに70キロを超すスピードで駆け抜けるレースは迫力満点です。一方、激坂では15〜20キロとスピードも落ちますので、選手にも応援の声がしっかり届きます。ぜひ多くの方に来ていただき、熱い声援を送ってほしいと思います」

レースでは常に全速力でペダルを踏むことはなく、周りの選手たちの出方やチームの状況を見ながら走る

TOJ開催決定を追い風に自転車による地域づくりを

TOJのステージ誘致に先立ち、いなべ市では恵まれた道路環境を生かした「サイクルツーリズム(自転車での観光の推進)」を進めようとする気運が高まっていた。そこにTOJの開催が決まる。市では大会を足がかりにして、行政主導によるサイクリストの誘客、自転車を通じたまちづくり事業をスタートさせた。

飲食店などと連携して、サイクルラック(スポーツ自転車専用スタンド台)を市内に設置。無料で自転車を電車に持ち込める、三岐鉄道のサイクルトレインを活用した広域観光にも取り組んだ。

昨年10月には、いなべ市では初となる自転車イベント「いなベヴェロフェスタ」を開催した。市内全域に11カ所のチェックポイントを配置して、自分の体力やレベルに合わせたルートで自由に走ってもらう。飲食を楽しめるチェックポイントもあり、300人を超えるサイクリストが秋サイクリングを満喫した。「アンケート結果も大好評で、今年もぜひ開催したいと思っています」と田中さん。

一方で、課題も少なくないという。「サイクリスト向けに、おすすめのルートや立ち寄りスポット、サイクルラックの場所などの情報発信をしていますが、実際の道路上での案内がまだ不十分で、より知ってもらえるための仕組み作りが必要と考えます」

鼎(かなえ)地区住民が手作りした応援かかしが沿道に並ぶ

昨年のTOJいなベステージは、初回の反省を踏まえて、さまざまな改善を行って開催した。3回目を迎える今年はコースを変更して、無料シャトルバスがメイン会場に入れるようにするなど、さらなる改革を実行する。春の大型連休には、ホームチーム「KINAN Cycling Team」と連携した3本のツアーイベントを企画して、事前に大会を盛り上げる工夫も凝らす。

いなベステージで、選手や観客からもっとも注目を集めているのが、コース沿いに置かれたかかしたちだ。作ったのは、鼎地区のふれあいサロンでボランティアをしている6人の女性グループ。過疎化が進む地域を元気にしたいと、かかし作りを始めた。10数体を作り終えたとき、ちょうどTOJの開催時期と重なって、自治会長の伊藤誠さんから「レースを応援する形で立ててたらどうか」と提案があり、沿道にかかしを並べることになった。現在ではかかしを目当てに鼎地区を訪れる人たちも増えている。今年は子どもをテーマにした新作かかしも登場するそうで、話題になりそうだ。

「TOJいなベステージ実行委員会には、レースコースが通る地区の自治会長も参加していただいています。地域の方も大会を盛り上げるために頑張ってくださっていて、こうした活動も地域の活性化に繋げていきたいと考えます」と田中さんは展望を語る。

1/メイン会場の梅林公園がある藤原町鼎地区では、住民手作りの応援かかしが立つ
2/鼎区自治会長の伊藤誠さんと、かかし作りに携わっている女性ボランティアグループの皆さん。「私たちが作ったかかしを見つけると、スピードをゆるめて眺めていく選手もいますよ」
3/レース開始前、コース上に応援メッセージなどをチョークで描くイベントも実施
4/今年は針金ハンガーを使って、かかしに動きをつけ、子どもたちが楽しく遊ぶ様子を表現した

column

TOJはUCI(国際自転車競技連合)公認のステージレースで、国内・海外各8チームの合計16チームが出場。8日間の日程(8ステージ)で行われ、ステージごとに独自のホームチームが設定されており、地域との交流などが図られている。いなベステージのホームチーム「KINAN Cycling Team」の阿曽圭佑選手に、自転車ロードレースの魅力や見どころなどを聞いた。「個人競技に見えて、実は団体競技である点が最大の魅力です。レース中にはさまざまな駆け引きが行われていて、選手たちが刻一刻とレースを変化させ、作り上げていくプロセスが見られます。最後まで誰が勝つかわからない心理戦のスポーツであることもおもしろい点です。いなベステージでは、地元選手として自分の走りをアピールするとともに、ホームチームとして優勝したいですね。個人的には2021年の『三重とこわか国体』で活躍することが目標ですし、ランクを上げて世界で戦いたいと思っています」

阿曽圭佑選手
1992年4月14日生まれ
三重県菰野町出身

第20回ツアー・オブ・ジャパンいなベステージ　5月23日(火)9:20〜　阿下喜駅前〜下野尻交差点〜梅林公園の周回コース(127キロ)

問い合わせ/0594-46-6309(第20回ツアー・オブ・ジャパンいなベステージ実行委員会事務局・いなべ市役所商工観光課)　いなベステージ公式サイト/http://www.inabe-stage.jp/

文/長屋整徳　写真/森貴史　写真提供/いなべ市役所 農林商工部商工観光課、企画部広報秘書課　デザイン/HANZO(GOZEN4JI ART WORKS)